

篠中だより 1月号



校訓 『智』 『想』 『誇』

一人ひとりの自己実現(かなえる)に向けて

自律

自分で考え、よりよく判断し、行動できる人

令和7年1月31日	
篠栗町立篠栗中学校	
校長 早川 昌吾	
生徒数	630名
1年生	192名
2年生	229名
3年生	209名

篠中の『想いの襷』 次の世代に引き継がれました (生徒会役員代替わり)



令和6年12月24日、終業式後に生徒会役員退任式・認証式が行われました。生徒会活動においても、いよいよ次の世代に代替わりすることになりました。

令和6年度生徒会は、『調和～対話を通して、支え合える環境をつくり、つながりの輪を広げよう～』というスローガンに向かって、体育会、合唱コンクール、はあとふる day、などの学校行事と前後の取組において「人と人とのつながり(人間関係形成)」を育ててくれました。それぞれの取組に共通することは、『想い』をもってリーダーが呼びかけ、それに応える仲間関係が間違いなく存在し、その関係が取組を重ねるごとに深まってい



ったことです。

終業式では、役員の方から全校生徒と新役員へエールを送ってくれました。その後、生徒会退任式・認証式が行われ、旧生徒会長の皆さんをはじめ旧役員の皆さんから温かいメッセージが全校生徒に向けて送られていました。

(中略)

チーム篠中はこれで終わらないはず。もっともっと温かな(人的)環境をつくることできると思います。今年度は日本一温かい学校になるための土台をつくったにすぎません。これからは次期生徒会役員がこの温かい雰囲気さをさらに良くしていこうと頑張ってくれるはず。三学期からは第69代生徒会役員を筆頭に『日本一温かい学校』をめざして全校生徒で頑張っていきたいと思います。



生徒会代表

全校生徒をこのように導いてくれた令和6年度役員の方、本当にありがとうございました。

そして、新学期が始まり、始業式において新生徒会長の方から全校生徒へ向けて、しっかりとした呼びかけが行われました。

(中略)

私たち新生徒会役員の活動も本格的に始まります。先輩たちから引き継いだことはもちろん、私たちも何かを残していけるように、そして、引っ張っていけるだけでなく、皆さんと一丸となって動くことができるリーダーをめざしてがんばります。

この3学期は、隣にいる級友と担任の先生のもとで過ごせる最後の学期です。次の学年に向けての「0学期」を有意義に過ごしましょう。

最後に、自分で考え、判断し、行動できる「自律」だけでなく、篠栗中の元気さと笑顔を守り、誰一人取り残さない「尊重」も意識して、日本一温かい学校をめざして過ごしていきたいと思います。

生徒会代表

力強い新生徒会長のあいさつに、今後の篠栗中生徒会の発展・前進と、さらに学校に流れる空気(雰囲気)に温かさを増すことを期待できる3学期のスタートでした。

新入生体験授業・説明会 開催

1月17日(金) 勢門小、篠栗小・萩尾分校の6年生を迎え、中学校の授業体験を行いました。その後、保護者も交えて新入生説明会を行いました。

授業体験では本校3年生の先生を中心に理科、数学、社会、音楽などの授業を体験してもらいました。

説明会では、主に保護者に向けて、カリキュラムの概要、準備等について説明しました。

発達段階の中で、最も心が揺れ動く時期。それを支えていくために、学校と家庭との深く強い連携をお願いしたところです。



寒さに負けず、「もりあげ隊」 挨拶運動、頑張ってくれています！

年明け、15日に初めての駅前挨拶運動でした。朝のさすような寒さの中、篠栗町を明るく住みやすい街にしたいという想いの元、頑張ってくれています。この頃、行き交う通勤・通学の方たちも挨拶を交わしてくれる方が増えたように思えます。



伝統文化に触れた1年生「百人一首大会」

1月24日、1学年国語科の取組で、「百人一首大会」が行われました。これまで授業の中で歌を覚えたり、その作者の心情などに触れたりしてきたようです。さらには、学級で作戦を考えたりと、1年生にとって集団づくりにおいても有意義な取組だったようです。



世界中の人たちが大切にしている京都の町で「公德心」を学んだ2年生 お世話になった方々と仲間の想いに応えることの大切さも心に残ったはずですよ

2年生は、1月22日から2泊3日の京都修学旅行に行ってきました。修学旅行の目的は、公共の交通機関やホテルでの宿泊、さらには世界遺産である京都の寺社を巡りながら「公德心(社会の一員としての自覚に基づき、公共のマナーや相手の利益を守ろうとする心)」について学びながら、個人もしくは集団の「人との関わり方(つながる視点)」「役割の果たし方(ささえる視点)」「生き方や在り方(かなえる視点)」について考え、よりよく判断し、行動できる力を高めることでした。

1日目、自力で博多駅筑紫口に集合。いきなり、社会の(公共の)厳しさや気遣いの必要性について知らされました。大人数で居ることだけで、駅利用者にとって負担となるということや、指示する声の大きさについても配慮が必要だと。さらには点字ブロックの上に並ばない、などなど公共のマナーを守るということが、大人数での活動となれば、さらに配慮を要することをしっかりと体験し、その都度行動を改善することもできるようになってきました。



2日目、ジャンボタクシーでの班別自主研修。前もって立てた計画通りにいかない班もあったようですが、世界遺産京都の街並みにしっかりと触れ合い、日本の歴史と文化を生で感じる事ができた本当に貴重な体験活動だったと思います。移動中の路地に歴史的事件や出来事が起こった場所が多数存在するなど、その多さに驚いた人も多かったと思います。私たちが宿泊した「いしちょう松菊園」も明治維新の立役者 木戸孝允(桂小五郎)の住居跡であったことに感激した生徒もいたようです。



3日目、嵐山散策。バスを降りたらそこに広がるのは、「日本の原風景」でした。流れる桂川、自然と人の手が融合した里山の風情。気づいた人もいますが、流れる川にペットボトルなどの人工ゴミが全くなく、住む人々が、自然と共存しながら生きている京都のもう一つの素晴らしさでした。



3日間を通して感じたことは、実行委員の生徒と担当の先生とで毎回綿密な打ち合わせがなされ、「最高の思い出にするために」という想いを確かめ合うことや、それぞれの役割を果たすことを通して「**仲間や相手の立場や想いに応える**」ことの大切さが、2学年集団の中に浸み込んでいくように広がっていったことです。特に、全体で集まる朝・夕の会における集合の早さ、話しを真剣な眼差しで聞く態度。そして、「すごい」と思ったのは、帰りの京都駅での行動と集団の姿です。出発時の博多駅での姿から数段成長した素晴らしい姿で、まさに「**公德心**」を理解した**集団の姿**でした。先生たちも含めた「2学年チーム」が**集団として大きく成長できた三日間**でした。



解散式での実行委員長の[]さんの皆に掛ける話は、思わず胸が熱くなるものでした。どれだけの想いをもってこの修学旅行に臨み、仲間呼びかけたのか。そして、仲間が反応してくれることで、さらに熱さが増して頑張ることができた。そんな内容の話でした。

想いを共有して(相手の想いに共鳴し)、集団が行動する姿は、観ていて、とても感動的でした。時には、思いつきで行動してしまう人もいましたが、仲間の呼びかけによって行動を改めて集団の中に戻るなど、一人ひとりの想いはしっかりとつながっており、まとまり感・一体感、そして「**仲間の温かさ**」を大いに感じる事ができました。一人ひとりの感性や行動の特性はそれぞれ違います。しかし、**想いを共有することで、凸凹が組み合わさって一つの塊となる「みんな違ってみんないい」**。これがその姿であると感じる事ができた三日間でした。